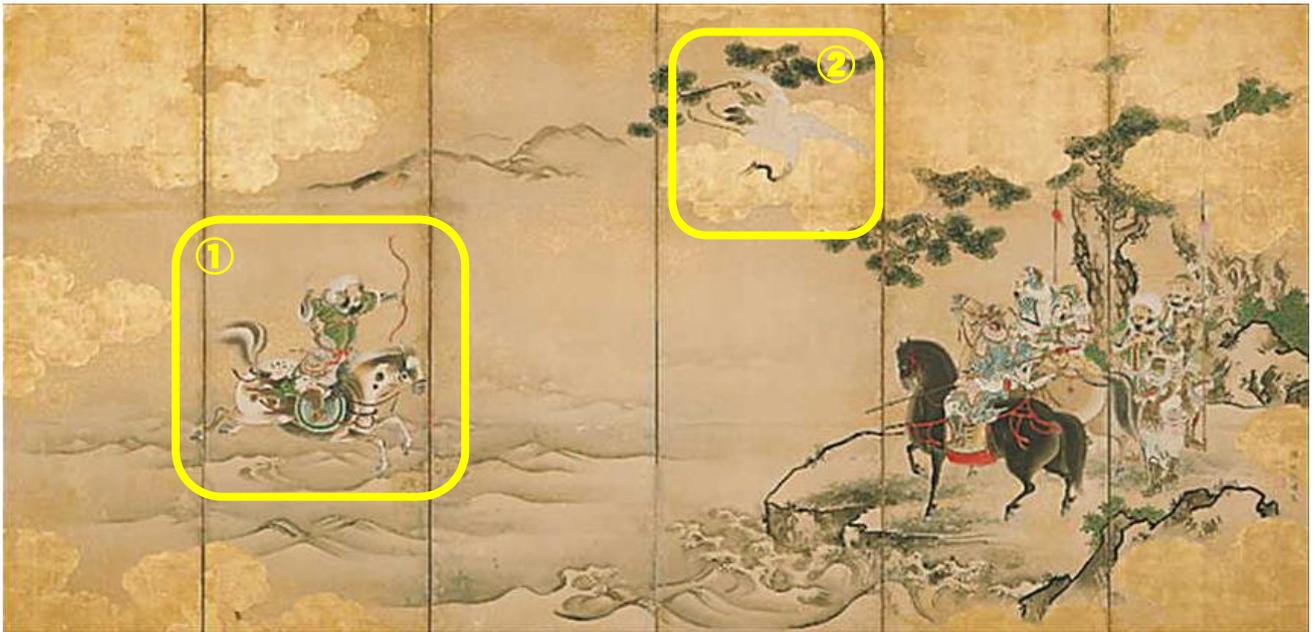


# 五十嵐浚明 《中国武将図屏風》 江戸時代後期 六曲一双屏風

## 〈右隻（右側の屏風）の物語〉



武将（①）が、こともあろうに吉祥のシンボルとされる鶴（②）を弓矢で射ているように見えます。

①の武将は、古代中国神話に登場する水神・共工（きょうこう）。共工は、洪水を起こす、中国では四罪といわれる悪神の一人とされます。

そして、②の鶴は、古代中国神話に登場する火の神・祝融（しゅくゆう）です。共工とは相容れない仲でした（水と火ですからね）。

共工は祝融との戦いで、老人姿の祝融を弓で射ようとしたのですが、祝融はひらりと鶴の姿に身を変えてこれをかわした、というのがこの場面です。

この後、結局、共工は祝融に負けてしまい、腹立ち紛れに不周山（天を支える柱）に頭突きしてこれをこわし、世界をメチャメチャにしてしまうのです。

## 〈左隻（左側の屏風）の物語〉



白布を下ろした車の前に、瑞雲と竜とが立ちはだかっています。車中の人物は後に周の国を建てる武王、そこに対峙する一人の武将は、殷の国の方相（官名）です。

殷の国の紂王は暴虐な振る舞いが多かったため、武王はこれを討とうと兵を挙げました。ここに描かれているのは、この時、武王の側に起こったいくつもの瑞兆のうちのひとつと思われます。

武王の陣に入った殷の方相は、長槍で武王を刺そうとしましたが、突然、紅の光が美しく輝き、八爪の金龍が出現し、武王の車を遮ったということです。

この後の戦いで、殷の兵は数こそ多かったものの、皆殷の紂王に嫌気がさしていたため、土壇場で殷を裏切り、武王が勝利したのです。